

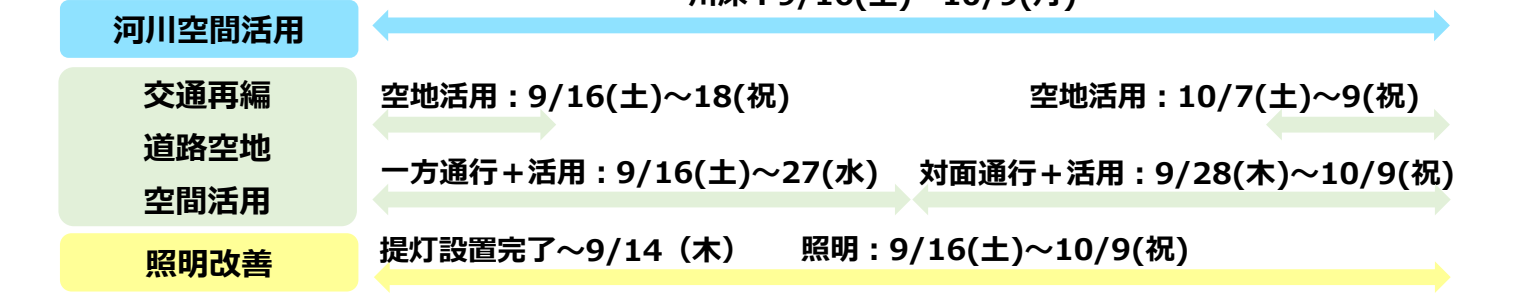
1. 社会実験の概要

■ 目的

長門湯本温泉観光まちづくり計画にもとづき進行中の温泉街のリノベーションにあたり、エリアの魅力向上に寄与する取組を現時点から段階的に実施し、将来像と課題を地域内外で共有するとともに、よりよい地域経営にむけた検証・改善を行う。

このため、整備や交通再編を行った場合に可能となる公共空間活用を試行し、生活や事業環境への影響を検証するとともに、景観を向上させる照明や建物の開き方など、公民一体で目指す将来像を体感し、効果を実証する。

■ 実施スケジュール



■ 体制 主催：湯本まちづくり協議会（みらい検討部会） / 共催：長門市 / 運営協力：有限会社ハートビートプラン

2. 社会実験の検証項目と実施内容

①河川活用促進のための川床・置き座の設置・運営の検証

・河川敷での川床の設置・運営

河川敷に川床を設置し、公募した事業者が管理運営する。3ヶ所設置。

・道路レベルでの置き座の設置・運営

道路から突き出す形で置き座を設置し、公募した事業者が管理運営する。1ヶ所設置。

→検証方法：設置期間の運営状況（運営者による活用方法及び増水時対応など）の確認
来街者による利用状況の確認、アンケート調査など



②人中心の道路空間活用と交通機能再編に伴う影響の検証

・人のための空間の設置

路上に仮設の店舗、休憩スペース、植栽プランターなどを設置する。

・交通規制の実施

人のための空間設置期間を一方通行と対面通行の期間で分け規制を行う。

・駐車場の設置

社会実験コア期間時に臨時駐車場を設置する。

→検証方法：設置期間の活用状況の確認、交通量調査、アンケート調査など



③官民連携した照明計画による温泉地景観の向上の検証

- ・民有地に共通の照明の設置
温泉街をイメージしたロゴマークをあしらった提灯を希望した民間の各建物に設置する。
各自が費用負担した提灯は、住民31軒、旅館8軒、計61個設置された。
- ・公共空間の照明演出
各橋梁や川床、足湯からのビュー、住吉神社など夜間景観上重要な箇所をライトアップする。
- ・コア期間の屋台等の演出
コア期間に店舗屋台の照明やキャンドルの設置による演出を行う。

→検証方法：アンケート調査など



④空間活用と事業性の検証

- ・公共空間のイベント的活用
社会実験のコア期間に恩湯駐車場や道路上の滞留スペースといった公共空間に、飲食・物販/体験の屋台及び、飲食スペース、アクティビティスペースを設置し公募した出店者による営業を行う。
結果として、飲食18、物販・体験9、その他7の計34の出店があった。
- ・既存店舗とイベントとの連携
コア期間に既存店舗が体験プログラムを実施する、軒先にポップアップ屋台を設置し、販売する等イベントと連動した営業を行う。地元の3店舗が参加した。
- ・夜のコンテンツの導入
コア期間内に夜の温泉街を楽しめるよう、空き店舗を活用して3日間限定のBARが運営された。

→検証方法：アンケート調査など



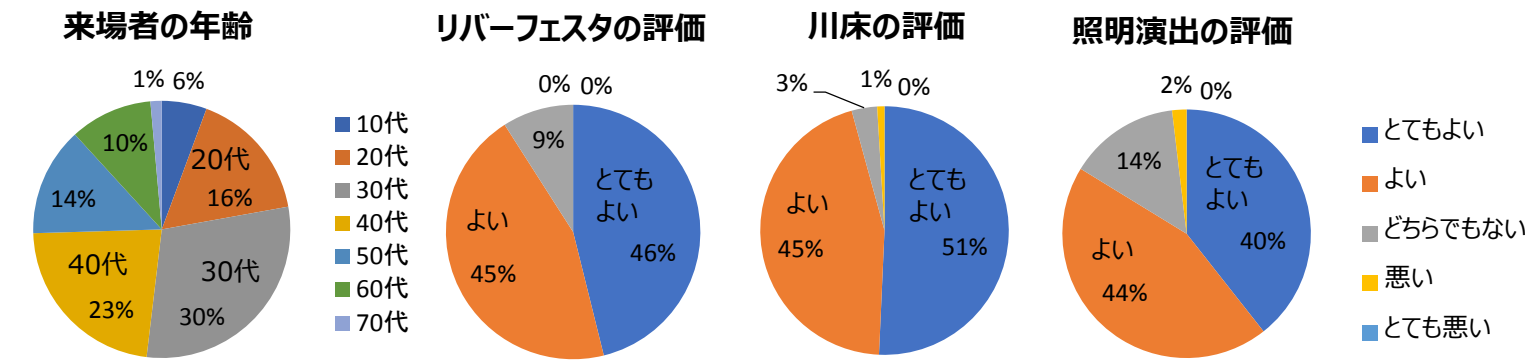
3. 調査項目

No	項目	調査内容
1	来場者アンケート	コア期間中に、来場者に向けて社会実験の印象などのアンケート調査を行った。
2	宿泊者アンケート	コア期間中に、旅館宿泊者に向けて社会実験の印象などのアンケート調査を行った。
3	地元アンケート	社会実験実施後、地元 3 地区の住民に向けて社会実験全般に関してアンケート調査を行った。
4	出店者アンケート	社会実験実施後、コア期間の出店者に向けて事業性などのアンケート調査を行った。
5	交通量調査	通常時の平日と休日(7/19,23)と社会実験一方通行時の平日と休日(9/18、20)、社会実験対面通行時の平日と休日(10/4、8)、自動車、歩行者、自転車などの交通量を調査した。

4. 調査結果概要

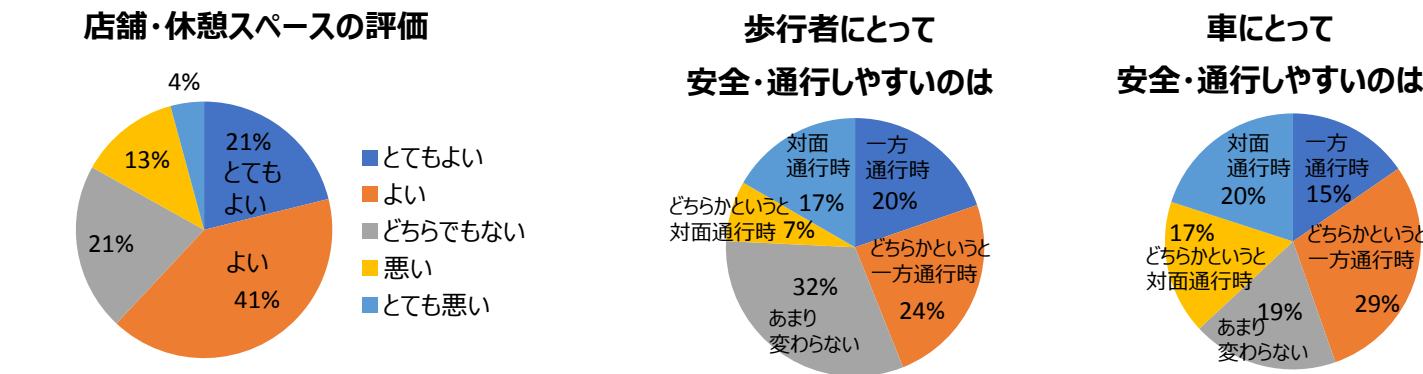
①来場者アンケート（回答数＝243 4日間）

・20代～40代が多く来場し、9割以上がリバーフェスタの取り組みを「とてもよい・よい」と評価



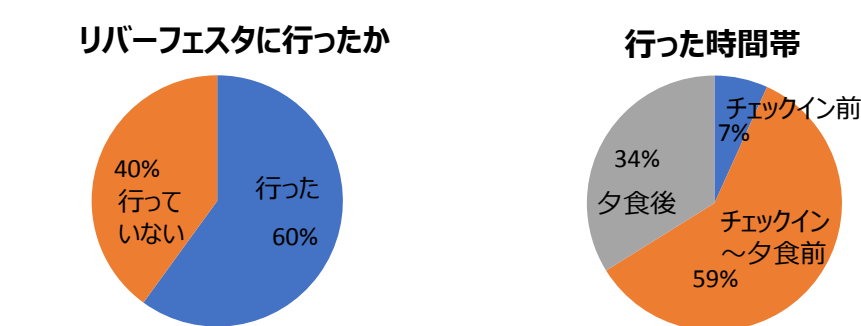
②地元アンケート（回答数＝169）

・道路上の店舗・休憩スペースは62％が評価
・歩行者安全通行は一方通行を評価、車の安全通行は一方通行と対面通行はほぼ同等の評価



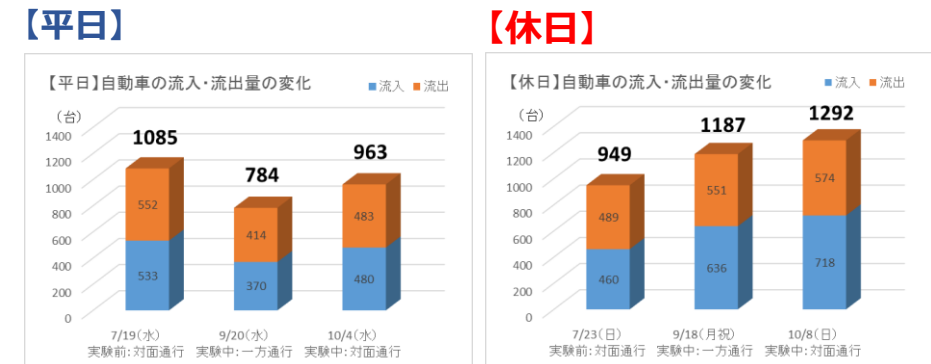
③宿泊者アンケート（回答数＝300）

・宿泊者の6割が来場、時間帯はチェックイン～夕食前が6割



⑤交通量調査

・一方通行時、通過交通の3割削減に効果あり



※通過交通：国道316号から俵山への抜け道として利用

5. 検証と今後の方向性（案）

①河川活用促進のための川床の設置・運営の検証（抜粋）

【ハード面】

- ・増水時でも構造的な問題は生じなかった。
- ・構造部分の塗装と木の使用により雰囲気のある空間になったが、長期使用に耐えるには素材の検討が必要。
- ・電源が遠く引き込みに労力がかかったことから、近い箇所への外部電源の設置が必要。

【ソフト面】

- ・設置物の毎日の撤去の負担が大きく、降雨が見込まれない等撤去せずとも支障のない条件などの検討が必要。
- ・いくつかのプログラムを実施したが、定常的な実施や利益を見込めるまではいかず、仕組み構築と人員体制が必要。
- ・恩湯前など人目に付きやすいところや、置き座では多く利用が見られ、常設後も利用が想定される。

非常に評価が高く、構造上の問題も生じていないため、常設化を目指した検討を進める。
長期使用を前提とした素材検証やコストの明確化、活用策の試行等は引き続き検証を重ねる必要がある。

②人中心の道路空間活用と交通機能再編に伴う影響の検証（抜粋）

- ・道路空間の歩行者空間活用により路上駐車が減少し、店舗・休憩スペースは62％の評価(評価しないは17%)。
- ・歩行者空間化にともない、車通行のための荷捌きやすれ違いスペース確保が必要。
- ・木製プランターで歩車をゆるやかに分離したのは成果だったが、安全確保のための視認性向上のため、景観上ふさわしくない赤のカラーコーンを設置せざるを得なく、デザインと安全面のバランスの検討が必要。
- ・プランターは沿道の住民や店舗の方々の水やり協力などにより維持でき、おもてなし空間をつくることができた。

道路空間活用については、地元を含め一定の評価を得ており、実現に向けた検討を進める。
この際、美装化とともに、交通計画や設置物の外観や快適な空間づくりに向けた地域との連携を検討。

- ・一方通行は3割ほどの通過交通の抑制効果があった。
- ・車にとっての安全・通行しやすさは一方通行（44％）or対面通行（37％）の評価でおおよそ同等の評価。

現状では、一方通行か相互通行かは決定せず、継続して社会実験を行う。

- ・一日1500人程度のイベントでピーク時100～130台の駐車場が必要。

イベント時における大寧寺駐車場の活用や二次交通の活用、駐車場の新設における回遊導線の検討が必要。

③官民連携した照明計画による温泉地景観の向上の検証（抜粋）

- ・公共照明による景観形成の確認ができた。また橋梁のライトアップには安全面・賑わい面でも効果がある。
- ・川床の照明による演出は有効であったが、利活用部については利用面・安全面から上部照射が必要である。
- ・住吉神社樹木のライトアップは有効で、シンボリックな民間エリアの演出は公共の財産として価値がある。
- ・オリジナル提灯の掲示は地域で61個もの参加を得て、街を温泉地として一体感をもたらすことができた。今後も実施者を増やし、街全体のイメージアップに加え、住民の健康安否を兼ねるなどの工夫も考えられる。
- ・現状イベント実施時の電源確保が十分でなく、広場整備時には対応が必要となる。

夜間の情緒作りや事業環境向上に効果があり、公民での照明やイベント等に対応可能な電源の配置を進める。
来場者の満足度の向上と景観に資する検証結果が得られたため、照明計画の検討が必要。
インフラ整備と併せて電源供給設備についての整備検討が必要。

④空間活用と事業性の検証（抜粋）

- ・造作や、広報デザイン、出店者の質の高さが新たな層への訴求や高い来場者満足、イベントブランディングに効果。
- ・物販とWSをセットにしたことで、体験的なコンテンツが増え、長時間の滞在にもつながった。
- ・期間限定のバーは常時賑わっており、温泉街における夜のコンテンツは重要である。
- ・全体のクオリティコントロールと運営マネジメントを出来る人材と運営スタッフの両方が必要。
- ・テントや什器などの運搬の手間やコスト削減のために近くでの倉庫確保が必要。
- ・電源などのインフラ確保、トイレ利用における周辺施設協力、イベント運営の円滑化などが必要。
- ・告知方法については、コストをかけないSNS発信や効果の高かった旅館での案内を活用。

クオリティコントロールを継続するとともに、旅館や地域の協力体制の構築も継続していく必要がある。

④出店者アンケート（回答数＝22）

・今回の出店に満足したのは22店舗中、21店舗
・次回のイベントへの参加意欲も22店舗中、20店舗
・イベントの雰囲気や趣旨を評価

⑥パブリシティ（抜粋）

